

2018年度
事業計画書

目 次

1	方 針	1
2	事業計画	
	(1) 科学振興のための研究助成と研究交流	2
	(2) 日中未来共創プロジェクト	5
	(3) 科学知識の普及・啓発	7

1. 方針

日本科学協会は1924(大正13)年に、前身である(財)科学知識普及会として設立され、雑誌『科学知識』の刊行を通し、難解な科学を多くの人々に少しでも解りやすく伝えることをそのミッションとしてきた。

昨今の日本の科学界を見ると、2014年から3年連続で日本人がノーベル賞を受賞するなどトップレベルの研究水準にあることが示されている一方で、若手研究者のポストク問題、基礎研究に没頭しにくい成果重視の風潮、研究データの改ざん問題など、多くの課題を抱えている。こうした状況の下、「研究者の育成」と「日中の文化交流」を二大テーマに据えながら、引き続き「社会と科学をつなぐ」「日中友好」という使命を果たすため、下記の通り、2018年度の事業計画を策定した。

(1) 科学を担う人材の育成

科学に関する若手研究者の育成を図るため、300件を超える科学研究に対する研究費の助成を行うとともに、専門化・細分化が進む研究者としての素養がバランスよく醸成できるよう各種研究会を主催する。また、その研究成果を社会が直面する課題の解決に活用されるよう、WEBサイト等で広く公表する。更に、科学に対する好奇心旺盛な高校生を対象に、その道の専門家が主にメールで個別指導を行うサイエンスメンタープログラムを実施する。

(2) 図書の寄贈を通じた文化交流等

日本国内で収集した図書を中国の主要な大学等へ寄贈し、日本語学習者等の日本文化に対する理解促進を図る。また、中国全土の大学を対象に、“日本”をテーマとして、知識を競う「クイズ大会」、2つの「作文コンクール」、「研究論文コンクール」を開催するとともに、各成績優秀者の日本招聘を実施し、日本の若者等との交流を通して日中相互理解の深化を図る。さらに日本では広範な若者を対象に“中国”をテーマとして「作文コンクール」を開催するとともに、成績優秀者の訪中プログラムを実施し、現地の若者等との交流等を通して日中相互理解の深化・発展を図る。

(3) 科学の魅力を社会に伝える

子どもや若い学生に対し、科学的素養の醸成や科学への関心を高めるため、科学の教材(WEBサイトやテキスト、出版物等)を通して科学の不思議や面白さを知ってもらう機会を提供する。特に、若い学生に現代人の基礎知識として生命科学を身につけてもらうことを目的に自主製作した生命科学の電子版テキストは、大学等でのトライアル授業を通して生命科学の基礎知識の普及を図る。

2. 事業計画

(1) 事業名「科学振興のための研究助成と研究交流」

【日本財団助成事業】

科学研究の将来を担う若手中心の人材の育成と、その研究を奨励し併せて研究交流の推進に努めることにより、科学研究の振興を図る。

① 若手研究者の研究奨励

イ. 一般科学研究助成

- イ) 内 容 : 萌芽性、新規性または独創性のある他からの助成が受け難い研究に対して助成を行う。
- ロ) 募集方法 : 一般公募による募集
- ハ) 対象となる研究 : 人文・社会科学および自然科学（ただし、医学を除く）に関する研究
- ニ) 対 象 者 : 大学院生あるいは大学等の所属機関で非常勤・任期付き雇用研究者であって、35歳以下の者（外国人留学生を含む）
- ホ) 助成金額 : 約650千円/件（助成予定件数 240件）

② 特定分野の研究奨励

イ. 実践研究助成

- イ) 内 容 : 教育・学習・自立支援等を行う様々な組織・団体（NPOを含む）において、その実践の場における社会的要請の高い研究への支援と、質的向上を目指して助成を行う。
- ロ) 募集方法 : 一般公募による募集
- ハ) 対象となる研究
 - a. 教員・NPO職員等が行う問題解決型研究 :
学校、NPOなどに所属している者が、その活動において直面している社会的諸問題の解決に向けて行う実践的な研究
 - b. 学芸員・司書等が行う調査・研究 :
学芸員・司書等が博物館や図書館等の生涯学習施設の活性化に資するために行う調査・研究
- ニ) 対 象 者 : 専門的立場にある者（教員、学芸員、図書館司書、カウンセラー、指導員等）あるいは問題解決に取り組んでいる当事者など
- ホ) 助成金額 : 約330千円/件（助成予定件数 30件）

ロ. 海洋・船舶科学研究助成

- イ) 内 容 : 海洋・船舶科学関連の、萌芽性、新規性または独創性のある研究に対して助成を行う。
- ロ) 募集方法 : 一般公募による募集

ハ) 対象となる研究 :

「海洋学および海洋関連科学」ならびに「船舶および船舶関連科学」で、その成果が海洋・船舶関係に直結する研究 (人文・社会科学を含む)

ニ) 対象者 : 大学院生あるいは大学等の所属機関で研究活動に従事する者であって、35歳以下の者 (外国人留学生を含む)

ホ) 助成金額 : 700千円/件 (助成予定件数 50件)

③ 研究助成の推進

イ) 内容 : 研究分野の動向や研究環境の変化などを勘案した上で助成方針を定め、それに即した募集および審査・選考を行い、本会独自の助成姿勢を示し研究助成の意義を高める。

ロ) 2019年度「笹川科学研究助成」助成計画策定

- a. 募集要項、選考方針等の策定
- b. 研究計画内容の評価ならびに審査・選考
- c. 2019年度の研究助成計画の策定

ハ) 笹川科学研究助成の研究成果の管理

笹川科学研究助成を受けた者 (笹川助成研究者) から提出された論文別刷等研究成果の整備・保管

ニ) 研究助成実績に関する資料の整備

「笹川科学研究助成」の実績についての分析および統計資料等の整備

④ 研究成果公表支援

イ. 海外発表助成

イ) 2018年度助成

- a. 内容 : 海外研究集会 (学会等を含む) において、研究成果の発表を行う研究者に対し、渡航費など必要な経費の助成を年4回に分けて行う。
- b. 対象者 : 笹川科学研究助成を受けた国内に居住する研究者
- c. 助成金額 : 約200千円/件 (助成予定件数 70件)

ロ) 2019年度募集周知および第1期助成計画策定

⑤ 「笹川科学研究奨励賞」受賞研究発表会の開催

イ. 「笹川科学研究奨励賞」

イ) 対象件数 : 2017年度助成者のうち、領域ごとに選出された計16名以内

ロ) 賞の趣旨 : 単に研究の内容や成果のみに捉われず、研究に対する取り組み姿勢など笹川科学研究助成らしい視点も加えて評価し、表彰することによって若手研究者の研究意欲を高める。

ハ) 選考 : 研究領域別選考委員会にて選考する。

ニ) 表彰内容 : 賞状および副賞各100千円

ロ. 研究発表会の開催

イ) 開催時期：2018年4月下旬（下記の「研究者交流会」と同日開催）

ロ) 内 容：「笹川科学研究奨励賞」受賞者による研究成果の発表と質疑応答

ハ) 参 加 者：笹川助成研究者、指導教官、関係者など約400名

⑥ 研究者交流会（研究奨励の会）の開催

イ. 開催時期：2018年4月下旬

ロ. 内 容：助成決定の通知、来賓の挨拶、研究者の相談指導、研究者の相互交流

ハ. 参 加 者：2018年度助成者（自由参加）、来賓、指導教官、関係者など約400名



事業経費：288,890千円（事業費：236,000千円、事業管理費：52,890千円）

(2) 事業名「日中未来共創プロジェクト」

日本国内で収集した教育・研究図書は中国の大学等への寄贈、中国の大学生を対象とした「日本知識大会」、中国及び日本の若者を対象とした各「作文コンクール」、さらに4事業に係る訪日・訪中プログラムを併せて実施することにより、将来を担う人材を育成し、日中相互理解の深化と友好関係の構築を図る。

また、中国全土の日本語学科設置大学の日本語専攻学生を対象に、中国の国家レベルの機関との共催により「日本研究論文コンクール」を開催し、日本に関する専門研究や論文執筆等、またこれに係る日本招聘を通じて、日中関係のキーパーソンとなる人材の育成を図り、安定した日中関係の未来構築に寄与する。

【日本財団助成事業】

① 図書寄贈

イ. 内 容：各方面への協力依頼を通じて日本で図書を収集し、選定・調整のうえ要望に基づき中国の大学等に継続寄贈する。

ロ. 図書の収集、寄贈

イ) 収集：15万冊/年

ロ) 寄贈：15万冊/年

ハ. 寄贈対象：中国76～78大学等

ニ. 寄贈方法：中継寄贈システムにより集約寄贈

② 笹川杯全国大学日本知識大会

イ. 内 容：中国全土の大学の日本語学習者が一堂に会して日本知識や日本語能力を検証する機会となる日本知識大会を開催し、優勝者等を日本に招聘する。

ロ. 参 加 者：中国全土の約100大学の日本語学習者

ハ. 日本招聘：優勝者等20名



③ 作文コンクール

イ. 笹川杯作文コンクール ―感知日本―

イ) 内 容：中国全土の若者を対象として、“日本”をテーマに日本語による作文コンクールを開催し、優勝者等を日本に招聘する。

ロ) 共催機関：人民中国雑誌社

ハ) 応募資格：満16歳～45歳の中国国民

ニ) 日本招聘：優勝者等5名

ロ. “本を味わい日本を知る”作文コンクール

イ) 内 容：中国全土の大学図書館を窓口とし、中国の大学生を対象にする日本関係図書の読書感想文を中国語で募集する作文コンクールを開催し、優勝者等を日本に招聘する。

ロ) 共催機関：上海交通大学図書館

ハ) 応募資格：中国全土の大学生

ニ) 日本招聘：優勝者 5 名

ハ. P a n d a 杯全日本青年作文コンクール

イ) 内 容：日本全国の若者を対象として、“中国”をテーマに日本語による作文コンクールを開催し、優秀賞受賞者等を中国に派遣する。

ロ) 共催機関：人民中国雑誌社、中華人民共和国駐日日本国大使館

ハ) 応募資格：満 1 6 歳～ 3 5 歳の日本人

ニ) 中国訪問：優秀賞受賞等 2 0 名

④ 新規関連事業等の企画・立案

【笹川科学活性化基金事業】

⑤ 「笹川杯日本研究論文コンクール」

イ) 内 容：中国全土の大学の日本語専攻の学部生を対象に日本に関する研究論文コンクールを開催し、成績優秀者等を日本に招聘する。

ロ) 共催機関：中国教育部大学日本語専攻教学指導分科委員会、
中国日語教学研究会、吉林大学

ハ) 応募資格：中国全土の大学の日本語専攻の学部生

ニ) 日本招聘：成績上位 3 組及び引率者（最多 1 0 名）

・ 日本財団助成事業経費 ①～④

1 1 7, 5 8 0 千円（事業費：6 4, 1 7 0 千円、事業管理費：5 3, 4 1 0 千円）

・ 笹川科学活性化基金事業経費 ⑤

8, 6 0 0 千円（事業管理費を含まず）

(3) 事業名「科学知識の普及・啓発」

高度な科学・技術社会を健全に維持するには、敬遠されがちな科学・技術への関心を高める必要から、次代の科学・技術を担う人材を育成、難解となりがちな科学・技術を分かりやすく身近な形で一般に伝える事業を行い科学知識の普及・啓発に資するものである。

【モーターボート競走法制定40周年記念基金事業】

① 科学実験データベースの公開

イ. 内 容：身近な生活のなかにも、実は密接なかかわりを持っている「科学」の世界をリニューアルしたウェブサイトを通して一般に公開する。

イ) 「科学実験データベース」の公開

科学実験や体験遊びを地域や家庭で、あるいは学校でいつでも手軽に取り扱えるように、アイテムの選出を容易にする検索項目（分野、季節、場所、対象年齢、難易度など）を設けて公開する。

ロ) 「コラム」の公開

大人の知的好奇心や探究心を満たすとともに、子供たちの教育や指導にも活用できる自然や文化に関する様々な話題を公開する。

ロ. 実施方法：本件の公開に向けて当初から協働して作り上げてきた兵庫教育大学原体験教育研究会に委託して実施する。

ハ. 委託内容：委託の内容は公開情報の追加及び情報の充実と修正管理業務

② 地球科学の理解促進

イ. 内 容：本会で制作した短編映像「Cubic Earth—もしも地球が立方体だったら—」を用いて、学校教育・社会教育における学びの場でワークショップなどを実施し、地球科学の理解促進に努める。

ロ. ワークショップ等：

イ) ワークショップ（会場：東京藝術大学、
対象：大学生40名）

ロ) 科学体験講座（会場：日本科学未来館、
対象：市民80名）

ハ) その他（会場：未定、対象：高校生40名）



③ 高校生のためのサイエンスメンタープログラム

イ. 内 容：科学研究に興味をもった高校生を対象に、経験豊かな専門研究者による指導を通じて科学研究の基礎と研究者としての姿勢を学んでもらい、次代の科学・技術を担う研究者の育成を目指す。

イ) 高校生のためのサイエンスメンタープログラム

a. 指導対象者

対象者（メンティ）は、特に科学（理科）に関心を持ち、研究テーマが設定されていて、

個人もしくは小グループで調査・研究を進めている意欲のある高校生で、専門家の指導を強く望んでいる者

b. 指導者

指導者（メンター）は、自然科学・応用科学の分野で、大学・研究所・博物館で実際に研究を行っている専門研究者あるいは経験者

c. 指導の主眼と方法

メンターは、メンティが設定した研究テーマの科学的意義や解明の現状について総説や論文を紹介して把握することの重要性を指導し、その上で未知の現象を抽出してその解明に向けた作業仮設などの作成を指導する。実際の実験・観察の過程では、採取した試料の分析や保存の方法、機器の扱い方や観測データの読み方、観察や調査結果のまとめや整理の仕方等々、およそ研究者として備えるべき基礎的な素養やルールを身に付けさせる指導に主眼を置く。指導は、メンター・メンティ間でのメールを利用して行い、必要に応じて電話・スカイプなどを利用し、また、フィールドワークや実験といった現場での対面指導も行うものとする。

メーリングリストには、担当教諭・メンター事業委員長・事務局を加えて指導情報を共有し、状況に応じて必要な措置を、関係者で迅速に講じることとする。

d. 指導対象区分と対象件数

20件程度

e. 指導期間

原則1年以内とする。但し、再申請を可とする。

f. サイエンスメンターワークショップ（中間期）

研究のビジョンと自身の将来を見つめ直し、メンティ間の交流を通じてモチベーションの向上を図り、統計など研究に必要な基礎知識を学ぶ機会を提供するため、中間期にサイエンスメンターワークショップを開催する。

g. 研究発表会

1年後に研究発表会を開催し、成果を公表する。

※なお、この場合の成果は、メンティの研究資質の向上であって、狭い意味での“研究課題の成果”ではない。

また、指導期間中、一定の成果が得られた研究については、対外的な発表（主に専門分野の学会等での発表）を促し、メンティの一層の資質向上を図ると同時に、サイエンスメンタープログラムの実効を広く周知するものとする。

h. 募集と審査・選考

当該年度のサイエンスメンタープログラムへの参加希望者を公募して選考し、選抜されたメンティに対して適当となるメンターの選任等を行う。



【笹川科学活性化基金事業】

④ 生命科学テキスト「人間の生命科学」プロジェクト

イ. 内 容 :

生命科学に関する知識は、その応用技術が高度に発展している現代社会を生きる人間にとって必須の基礎知識になっているが、現状の教育現場では人間の生命についての知識を授けるテキストは整備されていない。当協会は従来の教科書とは異なる発想で、生物としての人間を軸にした生命科学の副読本を制作した。

2016年度に「人間の生命科学テキスト研究会」八杉貞雄リーダーを中心とするテキスト制作編集会議を立ち上げて執筆をすすめ、2017年度上期に第一次テキストとして電子図書（ePUB）およびウェブ版が完成し、下期にテキストを実際の教育現場で試用する活動（トライアル授業）を開始した。

本年度は、テキストの普及活動年度と位置づけ、トライアル授業の継続と評価を進めると同時に、テキストの改訂や授業での使い方の改善、提案を通じてテキスト試用の普及活動を推進する。

なお、「編集会議」は「人間の生命科学テキスト研究会」へ名称を改める。

ロ. テキスト概要

タイトル：「人間の生命科学—現代社会に生きるための基礎知識」

編 者： 公益財団法人日本科学協会

体 裁： 電子図書 ePUB 版、Web 版

ハ. テキスト改訂

研究会下にテキスト改訂チームを設置し、改訂業務を行う。

〈改訂チームメンバー〉

中村和生氏（北里大学教授）、正木春彦氏（東京大学名誉教授）、

八杉悦子氏（東京大学大学院医学系研究科）、山田恵子氏（札幌医科大学元准教授）

ニ. トライアル授業（予定）

慶應義塾大学文科系学部（法学部、商学部、経済学部 PEARL コース）

実践女子大学・大学院、武蔵大学、防衛大学校、札幌市立大学、など。

⑤ 科学隣接領域の研究

イ. 内 容：自然科学の枠を超えた領域の専門家が集まり、宗教、倫理、アートを切り口に科学研究や研究者について議論と考察を重ね、今後の研究助成のあり方や若手研究者の育成について討議し、講演会・出版などを通して、広く国際的な視野をもった若手研究者の育成を目指す。

ロ. テ ー マ：科学と「宗教」、「倫理」、「アート」

ハ. 研究会等

イ) 研究会：「倫理」（1回）

「アート」（3回）

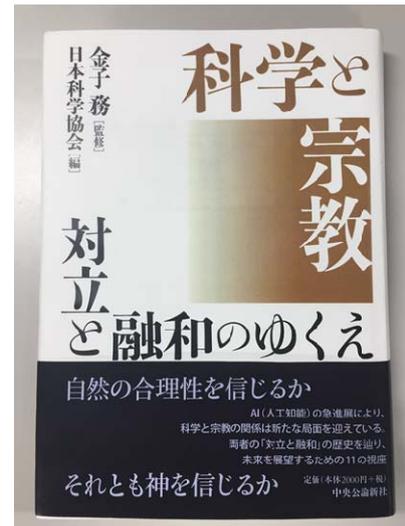
ロ) 講演会

「科学と宗教」出版記念セミナー（100名規模）

前年度開催した「科学と宗教」についての講演会の様子を1冊にまとめた書籍の出版記念セミナーを開催。執筆者を講師として3回程度開催し、参加者の「科学と宗教」についての理解を深める。

「科学と倫理」セミナー（200名規模）

前年度から実施している「科学と倫理」についての研究会の成果を発表し、若手研究者を中心に広く周知する。



- ・ モーターボート競走法制定40周年記念基金事業経費 ①～③

18,020千円

- ・ 笹川科学活性化基金事業経費 ④～⑤

24,540千円